境界とは何か？
20260509

国境、時代

人間の頭の中で決めたこと

虚栄心と劣等感→虚栄は劣等感の裏返し

男と女→LGBTQ
人間の原型は女、男は異物

生と死→どこからが死なのか→死も生の一部

あの世とこの世（黄泉平坂）

世界と自分の境界→皮膚一枚→自分とそれ以外のものとを分ける

生物にとって性はあいまいなもの

毎日3千億個以上の細胞が死に同数の細胞が生まれる

結界→聖と俗の境目

呼吸し食べ排泄する→身体は日々代謝更新→恒常性を保つ

自由と不自由→人間が感じる主観

日本人は寄りたがる→広い駐車場でも隣に停める

隣の家との争い→境界をはっきりさせること

人と人との距離→北欧は距離をとる

自分と他者

歩道と車道の区別→安全のため

点字ブロック→線そのものに意味がある

自分の中での公私のような境、規範

オーラ（精神波）をまとっている

生物と無生物の境→最小単位は細胞→生命

細胞膜の内と外

大人と子どもの境→あいまい

細胞→無生物から生物（生命）を創り出す

定義にあてはまるか

人間が概念を作る

境界とは人間同士の決め事→お互いが納得して

境界線は人間の主観→あるかどうかあやしい

境界に実体はない

境界は必要か

社会生活にとって必要→ルール

個体共有の範囲→なわばり

個体の種が生存、存続に有利な状況をつくりだす→他種を排除

宇宙の観点に広げると人生の意味がわからなくなる→分けて考える、区別する必要

地球の範囲→身近な人々（個人的）、国やコミュニティ（集団的）、人類全体（人類的）

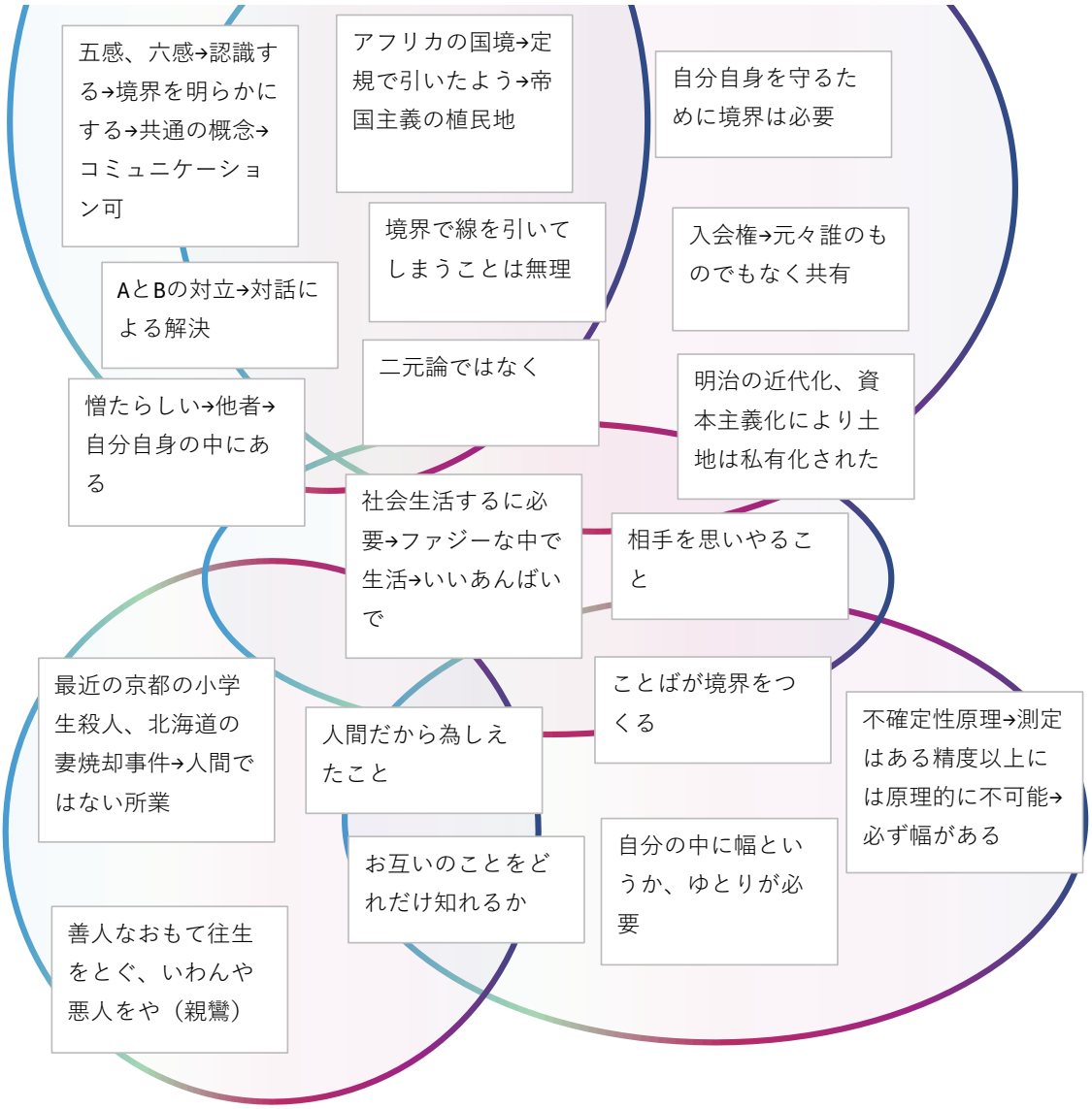
なわばりは動物だけでなく植物にもある

生命システムが自己の生存条件を自分でつくり出す

境界は人間の主観、都合で決めたもの

「ことば」の問題→言葉で切り分けて理解、対話

人間の良心との葛藤→現実とどう折り合いをつけるか


五感、六感→認識する→境界を明らかにする→共通の概念→コミュニケーション可
アフリカの国境→定規で引いたよう→帝国主義の植民地
自分自身を守るために境界は必要
境界で線を引いてしまうことは無理
入会権→元々誰のものでもなく共有
AとBの対立→対話による解決
二元論ではなく
明治の近代化、資本主義化により土地は私有化された
憎たらしい→他者→自分自身の中にある
社会生活するに必要→ファジーな中で生活→いいあんばいで
相手を思いやること
最近の京都の小学生殺人、北海道の妻焼却事件→人間ではない所業
人間だから為しえたこと
ことばが境界をつくる
不確定性原理→測定はある精度以上には原理的に不可能→必ず幅がある
お互いのことをどれだけ知れるか
自分の中に幅というか、ゆとりが必要
善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや（親鸞）